

ほのぼの家族

連載 200 回記念号



みんな笑顔になるには
どうしたらいいんだろう？



自分らしさって何だろう？
ちょっと難しい自分へのなぞなぞ

発行 倉敷市人権推進室・倉敷市教育委員会

編集 倉敷市人権推進室
倉敷市西中新田 640 番地 TEL 086-426-3255



倉敷市人権推進室・倉敷市教育委員会

ほのぼの家族の紹介

「ほのぼの家族」に登場するのは、小学生の健太と中学生の真理、そして、父と母、祖父と祖母の三世代同居の6人家族です。夕食を終えると皆リビングに集まって、家や地域のこと、友人や知人に関する悩み、学校や会社での出来事、通学や通勤の途中で気になったこと、テレビや新聞で報道されている社会問題など、いろいろな話を始めます。

この家族は、普段の生活の中で感じる理不尽なこと、特に差別や偏見に対して無関心でいることや、見て見ぬふりをするはいけなく感じています。

祖父 (70代)

釣りや野菜作りが趣味で
平和への思いが強い

真理 (中学2年生)

正義感が強く
好奇心旺盛

祖母 (60代)

ガーデニングが趣味で
社交的な性格

父 (40代)

魚料理が得意で
家族一の勉強家

母 (40代)

気さくな人柄で
働く女性を応援している

健太 (小学5年生)

サッカーが得意で
友達思い



まほうの言葉



ただいまあ。



お帰りなさい、健太。あらっ、どうかしたの？
元気がないように見えるけど。



う～ん、実はね、帰るとき同級生の弘康君が
なんだかしょんぼりしてたから、ちょっと心配なんだ。



それで元気がなかったのね。弘康君、どうしたのかしら。



健太は友達なんだから、
明日弘康君に何があったのか聞いてみたらどうだ？



聞いてみても良いけど、あの感じだと聞きづらいんだよね。



そうか、聞くのは難しいんじゃない。



それなら、元気なあいさつを試してみたらどう？
あいさつだったら大丈夫じゃないの？



まあ、あいさつくらいだったら大丈夫かな。



おばあちゃんはね、あいさつって「まほうの言葉」だと思うの。
だって、あいさつをされて嫌な気分になる人はいないでしょう？
それに元気をあげたり、もったりできる
すごい力を持った言葉だと思うのよ。



そうじゃ、おばあさんは良いことを言うなあ。
あいさつじゃよ、健太。



もう、おじいちゃんは調子がいいなあ。
でも、あいさつは「まほうの言葉」かあ。
明日弘康君に大きい声であいさつしてみるよ。
ありがとう、おばあちゃん。

一日をさわやかに始める時、感謝の心を伝える時、労をねぎらう時、あいさつはコミュニケーションの潤滑油になっていると思いませんか。あいさつは「まほうの言葉」です。

(平成 25 年 1 月掲載)



いじめっ子



真理のクラスではいじめはどうかの？



私たちのクラスでは、いじめのようなものが起こったらみんなで話し合うことにしているし、いじめを受けた側に立って考えることにしているわ。



そもそもいじめが起こらないようにすることが重要なんだけど、そのためには、お互いの人権を尊重し合う集団を作ることだな。



いじめは許せないわね。ところで、いじめっ子って、どうしていじめたりするのでしょうか？



元いじめっ子で、今中学生になっている子の作文を読んだことがあるけど、「自分が、毎日楽しくなくて、面白くなかったからいじめをやっていたと思う」と書いてたな。



考えさせられる内容ね。



今その子は、「当時の自分は〈やなやつ〉だった」って反省していて、部活動に熱中しているようだけだね。



その部活動は、たぶん、その子を受け入れ認めてくれる集団だったんでしょうね。だから、熱中することができているのね。



いじめる側が悪い、というのは確かにその通りなんだけど、いじめっ子自身、実はストレスをいっぱい抱えているケースが多いって聞いたことがあるわ。



いじめを受けている子のことをまず考えるべきだけど、いじめっ子のことも考える必要があるね。

「いじめっ子」も元は、ひとりの子どもに過ぎません。子どもが「いじめっ子」にならないようにするためには…？「いじめ」をなくすヒントが、ここにあるかもしれませんね。

(平成 25 年 5 月掲載)

私の言うことも聞いてよ



隣の和也君、このごろちょっと元気がないようね。



そうなんだ。スポーツ少年団の野球をやめて、塾に行かされているんだけど、もっと続けたかったらしいよ。



そうだったの。あんなに野球が好きなのよね。



和也君の気持ちも考えてあげればよかったのよね。私にも不満に思うことがあるわ。



どんなこと？



この間、高校進学の話をしたとき、お母さんが一方的に言って、話をあまり聞いてくれなかったじゃないの。



ごめんね。真理が急にその話をするものだから…。相手の気持ちをよく聞くことが、一人の人間として認める第一歩なのよね。



真理に言われて「子どもの権利条約」のことを思い出したよ。この中でも、自分の意見を表明する権利はとても大切にされているんだよ。



これからは私の考えももっと聞いてほしいわ。



そうだね。子どもも独立した人格を持つ一人の人間だから、大人の考えを押し付けるだけではいけないね。



私が知らないこともあるので、お父さんやお母さんとよく話し合っただけで決めたいわ。

親子の会話が、親からの一方通行になっていませんか。子どもは「話したいこと」をいっぱい抱えているはず。親は子どもの最高の相談相手でありたいですね。

(平成 15 年 5 月掲載)

「食」からの国際交流

 近所の、インドから来た留学生のシンさんの所で、サッカーの友達と一緒にカレーを食べたよ。

 よかったわね。何かあったの？

 サッカーを教えてくれるシンさんの誕生日に、手作りのたこをみんなでプレゼントしたんだ。それで、ごちそうしてくれたんだよ。

 シンさん、ここの生活になじんできたみたいね。

 でも「日本に来たとき、アパートやアルバイト探して断られ、とても困った」と言っていたよ。

 外見や肌の色などから、避けているのかしら。

 これだけ多くの外国の人が、暮らすようになったのに、誤解や偏見から、一部の店では、入店や入浴を断るところもあるそうだよ。

 ひどい話ね。

 外国の人とも仲良くできるはずなのに。

 私が通っている公民館の国際交流講座では、料理を作って食事をしながら、その国の暮らしや文化について、外国の人といろんな話をしてるのよ。

 いい交流ができているな。気軽に話をし触れ合いを通して、お互いの違いを認め合うことが大切なんだ。

 ぜひ今度、シンさんを家に招待して、家庭料理を食べてもらおうよ。

これだけ多くの外国の文化が日本に定着していても、外見や言葉、習慣などが違うという理由で、外国人は今も遠い存在でしょうか。「違い」は尊重すべき個性だと思いませんか。

(平成13年3月掲載)



舶来品



おじいちゃん、そのセーター素敵ね。



いいだろう。お母さんからのプレゼントだよ。
すごく暖かいんだ。なんたって、舶来だからね。



舶来って？



外国製品のことよ。今年の冬はすごく寒かったから、
暖かそうな品を選んだだけなの。



僕のセーターも舶来だね。



でも、それには、国外で作られたものに
日本の会社名が付いているわ。



今は、外国で作られたものが多くなったし、
いろんな国の人たちがかわってできた製品も増えているね。



それでも、舶来といえるのかしら？



舶来品は、ヨーロッパやアメリカで製造された
高価で上等な品のことだろう。



それは違うよ、おじいちゃん。この部屋の絨毯は
アジア産の立派な舶来品じゃない。
いいものが欧米だけでできると決め付けるのはよくないよ。



お母さん、この間、ブラウス買ったでしょう。
ヨーロッパのブランド名で選んでいたわね。



そうね。ついヨーロッパ製ってだけで、
いいものと思って買ってしまうことがあるわ。やっぱり、
あこがれが勝手な思い込みになっていたのかもしれないわね。



そうだよ。決め付けや思い込みがあると、無意識の内に、
偏った見方をしてしまうんだ。気を付けなさいわね。

「外国産」を意味する「舶来」という言葉。今では「銘柄」を意味する「ブランド」に押されて、
すっかり聞かなくなりましたが、生産国に対する偏見もなくなったのでしょうか。

(平成 18 年 3 月掲載)

女性と男性は対等なパートナー



おじいさん、きのう晩の町内会の集まりは遅くなったの？



新しい役員がなかなか決まらなくてね。



どうして決まらなかったの？



女の人の出席が多くてね。
「帰って聞いてみないと分からない」とか
「私が受けて帰ったらしかれる」などと
言われて話が進まないんだよ。



いつも重要な役職は男の人がしてきたからね。



それに、大事なことは男性が決めるという意識が
まだ残っているんだと思うよ。



それじゃあ、女の人は決まったことに従うだけなの？



そんなのおかしいわよ。女性と男性は対等な
パートナーって習ったわ。私の学校の生徒会長は女子よ。
彼女はとても積極的で頼もしいわ。



町内のみんなもこれまでのやり方や考え方を変える必要があるね。



大切なことは、性別じゃなくて能力ってことでしょう。



うちでは、魚料理はお父さんの方が上手なのよ。
よく作ってくれているでしょう。
今食べたメバルの煮つけはお父さんの料理よ。



ああおいしかった。ごちそうさま。
真理、食事の後片付けを手伝いなさいよ。女の子なんだから。



まあ、おじいさん！

家庭や職場で、いまだに「男だから」、「女だから」という理由で決められている役割があり
ませんか。性別に対する思い込みで決められた役割分担は、見直す必要がありそうですね。

(平成 16 年 4 月掲載)

おかしいの？ 男性の洗濯物干し

 今朝、お隣のおじさんが洗濯物を干していたよ。
男なのにおかしいね。

 どうして？ うちでもお父さんが干すこともあるよ。
健太がしてもいいんだよ。

 恥ずかしくて、ぼくにはできないよ。

 お父さんだって、はじめは近所の人のことが
気になって仕方がなかったよ。

 私が働くようになってから、
お父さんも家のことをよく手伝ってくれているのよ。

 ちょっと待って。「手伝う」というのは
「家事は女がするもの」という考え方だと思わない？

 言われてみればそうね。
私がするのが当たり前だと思っていたからね。

 私もずっと「家事は女がするもので、
男は仕事さえしていればいい」と思っていたよ。
だけど、お母さんの忙しそう姿を見ると、
何か自分でできないかと思って始めたんだよ。

 お父さんや真理がしてくれるようになって、
時間や気持ちにゆとりができたのよ。
家族みんなで協力することが大切だと思ったわ。

 お母さんに随分負担をかけていたんだね。
みんなで助け合って、気持ちよく楽しく暮らせる
家庭にしていこうじゃないか。

 ぼくもふろ掃除を頑張ってみようかな。

家事も育児も女性の仕事だと考えられていた時代がありました。今では、男性が洗濯物を干す姿も日常の光景に過ぎませんが、当時はまだ珍しかったのかもしれない。

(平成14年4月掲載)



「仏滅」ではいけないの？



隣のお姉ちゃんの結婚式、今度の月曜日なんだって。



そうよ、おめでたいわね。でも、本当は日曜日に式を挙げたかったのに、「仏滅」だからという家族の反対で、「大安」の月曜日にしたそうよ。



どうして「仏滅」じゃあいけないの。



中国にあった古い迷信をもとに、日本でつくられた「六曜」の中で、「仏滅」はよくない日とされているからよ。



「六曜」は、ほかにも葬式や棟上げなどのとき、日を選ぶのに長い間使われてきたけれど、科学的な根拠は何もないんだよ。



それなのに、どうしてみんな「六曜」を気にするの？



自分では本気で信じてはいないけれど、「世間でそうしているから」と、迷信や因習に従ってしまうからよ。そんな気持ちがいろんな差別や偏見につながっているとも言えるのよ。



よく「世間」って言うけれど、実は、私たち自身の考えによってつくられたものなんだよ。



そうね。だから私たち一人ひとりの考え方を変えていけばいいのよ。真理や健太も、迷信や因習にとらわれないで自分の気持ちを大切にしてくね。



もちろんよ。

「因習」とは、昔ながらのしきたりのことです。因習には根拠がありませんが、世間の常識のように言われることがあります。世間の常識も時には疑ってみる必要がありそうですね。

(平成 14 年 10 月掲載)

迷信



さっき玄関口で立ち止まってたけれど、どうかしたの？



知人の葬儀に参列して帰ってきたんだけど、粗供養の中に清め塩が入っているね。



清め塩って何？



死や血に関わると、自分に汚れがうつると思って、それを清めるための塩なのよ。



最近では、もう清め塩を入れていない葬儀社もあったりするわね。



そうした考えが始まったのは、平安時代のころかららしいね。当時の、特に貴族といわれる人たちは動物の死とか肉を食べることを、随分恐れていたらしいよ。



僕は、肉は大好きだよ。



一般の人が塩をまくようになったのは、江戸時代の終わりごろかららしいね。



古くからのしきたりといわれているものの中には、全く科学的根拠のない迷信が混じっていることも少なくないね。



「喪中につき、年頭のあいさつを控えさせていただきます」と、年賀状を出さないのは多くの人がやっているわね。



仏滅だから結婚式をやらないとか、友引だから葬式をやらないとかよく聞くけど、最近では全く意識しない人も増えてきているわ。



しきたりだからとそのまま同調するのではなく、根拠のない不合理な迷信と思われるものは見直していきたいね。

「迷信」とは、間違った言い伝えなどを、正しいと信じこむことです。「けがれ」も「迷信」のひとつですが、そこから生まれた偏見や差別があります。理不尽だと思いませんか。

(平成 23 年 10 月掲載)

点字ブロック



この前、久しぶりにお父さんと駅前を歩いていると、階段や交差点など至る所にバリアフリーの設備がきちんと設置されているのに気が付いたわ。だけど、歩道の上にたくさんの自転車が置いてあるのにびっくりしたわ。



そうそう、しかも点字ブロックの上に無造作に自転車を置いてあるところもあったな。あれでは目の不自由な人は安心して点字ブロックの上を歩くことができないと思うよ。



心無い人が何も考えずに自転車を点字ブロックの上に置いたのかもしれないけれど、目が不自由な人にとって点字ブロックは、安心して歩くためにとても大切なんだ。



だれでも目が不自由になったら、障害物があると、つまずいて転んで大変なけがをするかもしれないね。



この前、学校でアイマスクの体験をしたよ。目が見えないということはとても不安で怖かったし、とても一人では歩けないよ。



点字ブロックは岡山県の人が50年ほど前に考案したということを聞いたことがあるわ。



随分前から設置されているけれど、なかなか人々の意識の中に浸透していないことになるね。



私たちは普段何気なく生活しているけれど、いつも「もし自分がその立場だったら」ということを考えて行動しなければならないね。まずは自分にできることを自分からはじめることだよ。

歩道の段差、路上の放置自転車、狭い公衆トイレなどバリアは社会の至る所に存在しています。しかし、最大のバリアは、無関心や偏見などの心のバリアではないでしょうか。

(平成25年11月掲載)



高齢者に優しい社会

 田中さんのおばあちゃん、この間、
買い物の帰りに出会ったけれど、なんとなく寂しそうだったわ。

 最近お見掛けしないので、気になっていたのよ。

 1年ぐらい前は、みんなと公園の花壇の手入れをしたり、
公民館の講座に参加していたりしたのよね。

 家から出るのがおっくうになってきたのかな。

 おばあちゃんは、みんなと一緒に
楽しく過ごすのが好きな方なのよね。

 そういえば、もう年だから外に出るのを控えるようにと
息子さんから言われるって聞いたこともあるわ。

 家に閉じこもるのはよくないと思うよ。
逆に、いろいろな行事に、積極的に参加できるように、
地域で声を掛け合ったりすることが大切だね。

 そうすれば友だちも増えて、違う世代の人たちとの
交流もできるし、お互いの理解が深まっていいわ。

 今は、高齢者だけの世帯や一人暮らしが増えているから、
いざというとき助け合うこともできていいよ。

 以前、大きな災害の後に、
高齢者同士の助け合いが報道されていたこともあったわ。

 地震などの災害現場では、
地域みんなの助け合いが重要なのね。

 そうよ。そのためにも、普段からのコミュニケーションが大切なよ。

 特に、高齢の人たちには、住み慣れた地域や家庭で、
健康で安心して暮らせるよう、
みんなで支えていかなければならないからね。

高齢者に優しい社会は、決して高齢者にだけ優しい社会という訳ではありません。今は「高齢者」の問題でも、いずれは「自分自身」の問題に変わります。他人事ではありませんね。

(平成 19 年 9 月掲載)

家柄じゃなくて人柄じゃないの

 さくらちゃんの結婚式どうだった？

 さくらちゃんも叔父さんたちも、とてもうれしそうだったわ。

 真理のときは、隣に座るのはどんな人かなと想像していたよ。

 いやだわ。私はまだ中学生よ。

 でも、大きくなって結婚するとしたら、どんな人がいい？

 そうね、もし結婚するとしたら、
スタイルや収入のことも気になるけど、
性格や趣味のことを一番に考えたいわ。

 うらやましいなあ。おじいちゃんたちのころは、
自分たちだけでは、なかなか決められなかったんだよ。

 そうなの。結婚は家と家とが結びつくという考えが強くて、
本人の知らないところで、家柄や資産、
出生地などを調べて決めることが多かったのよ。

 そんな自分の力ではどうにもならないことで、
結婚相手が決められるなんてひどいわ。
それに、勝手に調べるのはプライバシーの侵害でしょう。
今はそんなことしていないよね。

 それがね、まだ家という意識にこだわって調べる人もいるのよ。

 残念だね。こんなことが人権侵害につながることに
早く気付いてほしいよ。結婚は二人の気持ちが大切だから、
家柄じゃなくて人柄で決めたいね。

身元調査は、依頼することも協力することも、重大な人権侵害になることをご存知ですか。変えようのない「家柄」や「出生地」が、二人の幸せを邪魔してはいけませんよね。

(平成 17 年 2 月掲載)

戦争の教訓を今に

 明君のおじいちゃんの家の裏山には、
入れないようにしているけど、いくつかほら穴があるんだって。

 それは、戦争中に掘られた防空ごうだろう。

 防空ごうって？

 空襲のとき、みんなが逃げ込むために作られたほら穴のことなのよ。

 近くにも爆弾が落とされたの？

 水島に大空襲があったと聞いたことがあるわ。

 そうだよ。水島は航空機工場があったから、何度か
空襲を受けたんだ。昭和20年6月22日には大規模な爆撃で
工場が壊されてしまい、従業員や住民も犠牲になったそうだよ。

 そんなことがあったなんて、初めて聞いたよ。

 戦争が終わってから、爆撃を受けた
工場近くの様子を見たが、ひどいもんだったよ。

 あの当時は食べ物なくて、いつもおなかがすいてたわ。
二度と体験したくないわね。

 戦争を知らない人たちがだんだん増えていくんだ。
当時の様子を少しでも知ってもらいたいな。

 市内には、地下工場や砲台の跡など、
戦争遺跡として今でも残っている場所が何カ所もあるんだよ。

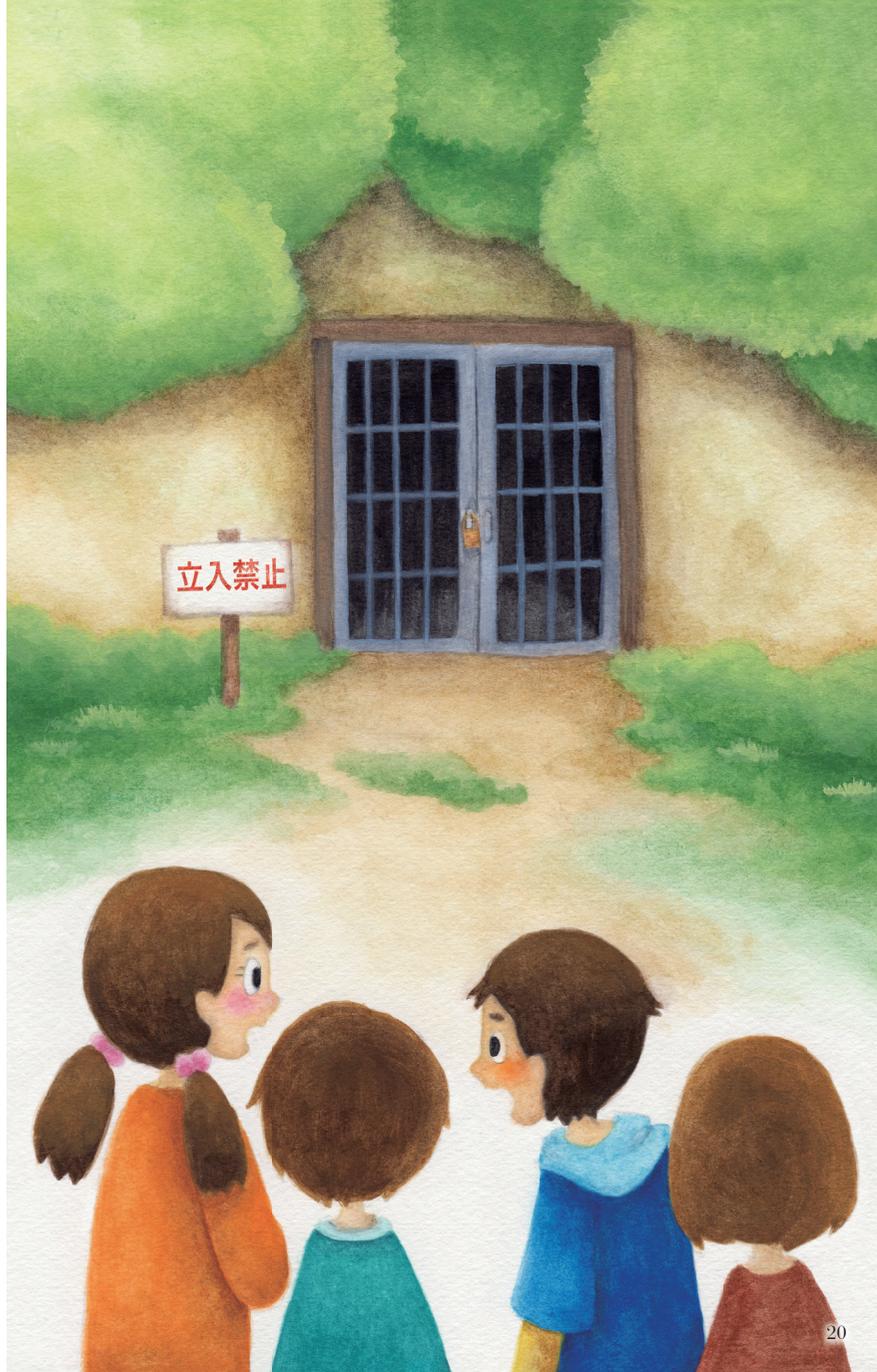
 身近なところにもあったのね。

 今、日本では平和が当たり前のようだけど、
世界各地では紛争や内戦が絶えないわね。私たちは、
戦争で得た教訓をしっかりと受け継がなければならないわ。

 戦争を体験した人や伝え聞いて知っている人から話を聞いて、
平和について考えてみることもね。

「世界で唯一の被爆国は？」という問いに、答えられない子どもが増えていると言われていま
す。戦争の歴史を風化させないために、私たちは何を語り継げば良いのでしょうか。

(平成18年8月掲載)



発刊によせて

人権問題を 「自分自身の」問題として



「ほのぼの家族」は、「広報くらしき」の平成10年4月号で産声を上げました。子どもから高齢者まで幅広い世代の方々が人権をより身近なものに感じられるよう、毎月異なるテーマを家族の会話によって掘り下げていくストーリーで連載が始まりました。

以来17年間、形を変えることなく刻み続けた足跡は、平成26年12月号で連載200回を迎えました。これを記念して、さまざまなテーマから13作品を選び作成したのが、この連載200回記念号です。

倉敷市には、人権を尊重するまちづくりの歴史と文化があります。だからこそ「ほのぼの家族」の連載がこれほどまでに長く続けられ、また、市民の皆さまに読まれ続けてきたのではないかと思います。

この記念号を通じて、人権問題は「誰かの」問題ではなく、私たち一人ひとり「自分自身の」問題であることに、改めて思いを馳せていただければと思います。

そして、倉敷市がめざす「誰もがその人らしさを尊重され、幸せに暮らしている」まちづくりを、一人でも多くの方のご参加をお願いできれば幸いです。

平成 27 年 9 月

倉敷市長 伊東 香織

「ほのぼの家族」連載200号が掲載された「広報くらしき」(平成26年12月発行)

「ほのぼの家族」200タイトル一覧

- 人権教育のための国連10年 一人権文化の創造一
- 子どもは地球の宝
- 広がるふれあい
- 2人で驚く幸せ
- 仕事も男女平等に
- 楽しみと生きがい
- 韓国の金(キム)さんを迎えて
- バリアフリー(障壁を取り除く)
- 世界人権宣言から50年
- 新年の抱負
- 二重・三重の苦しみ
- 防ごう地球温暖化
- 「人権の世紀」へ向けて
- 今も、尊い命が…
- いのちを守るオン・層が危ない!!
- 許せない えせ同和行為
- 平和のないところに人権はない
- 今年1999年は国際高齢者年
- ようこそ倉敷へ
- 耳の不自由な女を得て
- ひろげよう心と心のネットワーク
- 西暦2000年の抱負
- セフハラは いや
- 身元調査お断り
- 家事も仕事も生きがいよ
- 子どもと向き合う
- 愛犬家はふさいだりマナーを
- 教科書はなぜダダなの?
- 「平和の文化」って何? 一平和の文化国際年一
- おばあちゃん湯加減いかが?
- たばこは やめよう
- 障害者と共に
- 人権って何だろう
- 21世紀人権の世紀に
- 差別落書きは自分がみじめやめようよ
- 「食」からの国際交流
- 「女人禁制」って変じゃない?
- 「ボランティア国際年」に向けて
- きれいな空気や水次の世代に
- きっばと断ろう 一えせ同和行為一
- 戦争はもうこりこり!
- 生きがいやふれあいのある暮らしを
- 子どもは社会の宝物
- 薬剤師への夢 一欠格条項の見直し一
- ハンセン病と人権週間
- みんなの人権
- 「しない・させない・許さない」一身分調査一
- 文化・習慣の違いを認めて
- おかしいの? 男性の洗濯物干し
- 「いじめ」をほっておけない人々に
- 許せない落書き
- 教科書が変わった
- 盛り上がったワールドカップ
- 祭り太鼓と…
- 「伝説」ではないの?
- 一人歩きのできる街
- 新しい「手口」のえせ同和行為
- みんなの人権
- 知らないところでだれかが
- 国にランクがあるの?
- エコ・ドライブを進めよう
- 私の言うことも聞いてよ
- DVって何?
- 責任を持つとネットへの書き込み
- 心に平和のとけてを
- いつまでも生きがいを持って
- だつにもプライバシー
- 一人の選手として見てほしい
- 「身体障害者補助犬」のことを知ってる?
- みんなの人権
- 許せない「宿泊拒否」
- 国際交流のチャンス
- 女性と男性は対等なパートナー
- みんなの力で防ごう 一児童虐待一
- エコ・暮らし〜四季
- 「えせ同和行為」に加担していいの?
- 世界で一番いのちの短い国
- どう考えたいの? 一高齢者への虐待一
- コンプライアンス
- ユニバーサルデザインとバリアフリー
- 「人権文化」の花を咲かそう
- みんなの人権
- 家柄じゃなくて 人柄じゃないの
- 違う国でも助け合いたい
- どう思う? 「女は家庭 男は仕事」
- 地域で子育てを
- 6月5日は「環境の日」
- 個人も狙われる えせ同和行為
- 今、スウェーデン何が? 厳しい平和への道のり
- いくつになっても自分らしく
- フェアトレードコーヒーをどうぞ
- 全国障害者スポーツ大会
- 車いす使用者用の駐車スペースに止めない!
- みんなの人権
- 昔馴染の実 今ベトナム
- 舶来品
- 男性の育児休業
- 子どもの思い 大人の考え
- 地球にやさしいエネルギー
- 個人情報流出
- 戦争の教訓を今に
- 生涯現役で
- QRで地球を守ろう
- 共に生きる社会
- 人権週間
- みんなの人権
- 今、学級名簿は
- 子どもと触れ合う
- 地球の未来のために
- 許してはいけない えせ同和行為
- みんな地球市民のもの
- 高齢者に優しい社会
- 子育ては難しい?
- もっと働きたい
- わが家の人権週間
- みんなの人権
- もうすぐ社会人
- 外国人労働者は?
- ワーク・ライフ・バランス
- 携帯電話って危険なの?
- 地域と川と
- やめよう「身分調査」
- 広島平和記念公園へ行こうよ
- 高齢者の笑顔があふれる町づくりを
- 「ハンセン病に学ぶ…」
- 「ふれジョブ」ってなに?
- ふれあいコンサート
- みんなの人権
- 四つ約束
- 外国人労働者は今?
- 男の仕事?女の仕事?
- 育児と仕事
- 環境問題はわが家から
- 「六親」って?
- 戦争は最大の人権侵害
- 高齢者介護
- アンネの日記
- 障がい者の社会参加
- 人権を「習慣」にしよう
- 路上生活者は今
- ユニバーサルデザインってなに?
- 外国人観光客
- 男女共同参画って?
- 端午の節句
- ホタルが飛んでいたよ
- 聞き合わせ
- 平和都市宣言
- 元気で楽しく長生きしてね
- HIVは怖いの?
- 心のバリアフリー
- 人権擁護委員のお仕事は?
- イクメン・くるみん
- 児童虐待
- お隣の国との交流
- DVを防ぎたい
- 褒めて育てる
- 川をきれいにして
- 交流の場としたい
- 地図から消された島
- グループホームで
- 迷信
- 盲導犬
- 家系
- カルチャージョック
- 犯罪被害者の人権
- 国際理解
- 働きたい
- 児童虐待
- 水道の水はどこから?
- 障害のある人の人権
- 世界人権宣言
- 生きがい
- ポジティブ・アクション
- 罰(ばち)
- 人権講演会
- まほうの言葉
- ランドセル
- インターネットによる人権侵害
- いじめっ子
- 「思いやりの心」?
- 釣書(ツリガキ)?
- 平和の暮らし
- ひどい暮らし
- 幸せの条件
- 点字ブロック
- 合理的配慮
- 働くことって
- 見えないホームレス
- 男性の仕事・女性の仕事?
- LINE(ライン)
- 虐待と子育て
- 人権意識
- 身分調査
- 戦争の記憶 風化させないで
- 悪徳高法
- とげのある言葉
- 憲法を守る義務は国民にある?
- 白い車いすのマーク